

本ばこ

—新刊教材・図書紹介—

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っている便利な図書・資料」などを取り上げます。

- ※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

学習過程を取り入れた初級教科書

『J.Bridge for Beginners Vol. 1』

データ

- 1 小山 悟
- 2 凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 8F) TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL. www.bonjinsha.com/
- 3 2007年3月
- 4 978-4-89358-631-5
- 5 B5判 296ページ
- 6 2940円
- 7 別冊1冊、CD2枚付

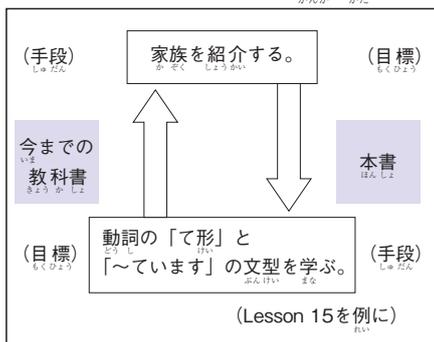
初級の教科書と言えば、基本文型の導入と代入やQ&Aなどの文型練習、学習文型を使った短い会話文という構成が一般的でしたが、そのパターンをくずす新しい初級教科書が出ました。

この教科書は、第二言語習得 (SLA: Second Language Acquisition) の研究結果を利用して、学習者が日本語を学んでいく過程が教科書の構成や練習に取り入れられています。

▽トピック・シラバス

言葉は本来目的があって使われるものです。この教科書では、それぞれの課で取り上げた話題 (トピック) について話したり書いたりできるようになることが目標になっています。今までの教科書のようにその課の学習文型を使って、どんな場面でも何ができるかという発想と全く逆ですから、文型も話題に合わせた提出順序になっています。

トピック・シラバスの考え方

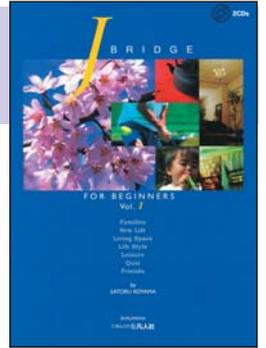


▽「観察→発見→創造」の学習の流れ

SLAでは、学習者が言葉のインプットを理解する中で、言葉の使い方や形をよく観察して規則を自分で発見すること、そして理解した言葉を使って自分のことを表現すること (創造) を通して使えるようになると言われていています。この教科書では、語彙や聴解の活動にCDが使われ、話せるようになるためのインプットとして位置づけられています。



P.41



▽スパイラル方式トピックを少し変えてくりかえす

学習者は、わかってでもできるようになるためには時間がかかる、ある文法や文型が使えるようになる時期は個人差があるということもSLA研究からわかっています。そこで著者は、何課か進んでから話題 (トピック) を少し変えて、くりかえすことを考えました。この教科書では、7つの話題を3回くりかえして (ステップ1~3)、合計21課で構成されています (写真参照)。前の話題の時にできなかった学習者は次の時にもう一度勉強する機会があり、もうすでにできる学習者は話題が違うので飽きないで練習できるようになっています。

『J Bridge』は、中級編 (実際には初級から中級への橋渡しとなる初中級レベル) が2000年に発行されました。

話す話題・内容を前面に出し、そのことを話すために使う表現や文型の形や用法を学習者自身が発見したり説明したりする活動はとても新鮮でした。また、話題や技能を変えて言葉を使う練習をくりかえす方法はここでも紹介されています。

初級編は、今後第2巻 (Vol.2) が続いて発行される予定です。

構成	Topics	Step 1	Step 2	Step 3
Families	Lesson 1 家族について	p.3	Lesson 2 家族について	Lesson 3 家族について
New Life	Lesson 2 サイクルショップ	p.13	Lesson 3 サイクルショップ	Lesson 4 サイクルショップ
Living Space	Lesson 3 私の住んでいる町	p.23	Lesson 4 私の住んでいる町	Lesson 5 私の住んでいる町
Life Style	Lesson 4 毎日の生活	p.31	Lesson 5 毎日の生活	Lesson 6 毎日の生活
Leisure	Lesson 5 いっしょに行きませんか	p.41	Lesson 6 いっしょに行きませんか	Lesson 7 いっしょに行きませんか
Quiz	Lesson 6 3つの質問	p.51	Lesson 7 3つの質問	Lesson 8 3つの質問
Friends	Lesson 7 日本人ですか	p.61	Lesson 8 日本人ですか	Lesson 9 日本人ですか

P.iv

P.v

日本の学校で学ぶ外国人の子どものための日本語教材

『マリアとケンのいっしょににほんご』 『学び』につながる16の活動



データ

- 1 横田 淳子・小林 幸江
- 2 スリーエーネット
- ワーク(〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2-6-3 松栄ビル) TEL.03-3292-5751
- FAX.03-3292-6195 URL. www.3anet.co.jp/
- 3 2007年3月
- 4 978-4-88319-423-0
- 5 B5判
- 153ページ
- 6 2100円
- 7 別冊付(教師用)

日本国内の公立学校に在籍している日本語にほんごの学習の必要な児童・生徒数は、2万692名に上るそうです(平成17年度文部科学省調査)。この教材は、そのような日本語を母語としない子どもたちのための教材です。具体的には、ごく初歩的な生活日本語がわかって、ひらがなが1字ずつ読める程度の日本語のレベルの子どもの対象としています。

課は、全部で16課になっています。「あいさつ」「じしゃく」「ごみ」「すごろく」「じゃんけん」「ラケットレース」「スーパーマーケット」など、日本での生活や学校場面など子どもたちの日本語使用場面や興味に沿った題材が採られています。

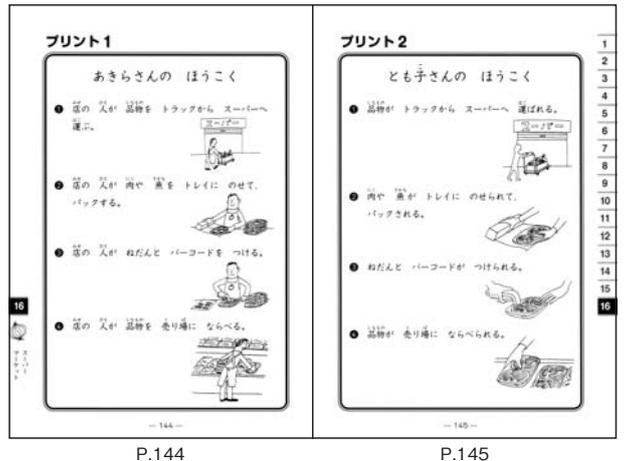
課の構成は、扉絵(内容がわかるように描かれた絵)、「プリント」(内容に関連した活動の手順を普通体で簡単にわかりやすく書いたもの)、「本文を読もう」(プリントの内容を丁寧体にして対話の形で提示したもの)、「練習しよう」(学習項目を定着させるための文法や読み書きが中心になっている練習問題)、「日本語を使おう」(学習項目を4技能で使う練習)となっています。

1課で扱われている学習項目は、他の課でも扱われ、繰り返し練習できるようにになっています。1課にかける時間は3~5時間が想定されています。

また、日本語を教えた経験のない教師にも配慮して、いろいろな工夫がなされています。例えば、文法用語の使用は最低限に限定されている上、日本語教育で使われているイ形容詞やナ形容詞という用語は使わず、学校文法で使われ

ている形容詞、形容動詞という用語を用いています。さらに、この教材を使う際の指導の流れや留意点などを記した手引きも充実しています。

この教材の前段階の教材として同じ作者による『いっしょににほんご』という絵教材も出版されています。



効果的な発表能力を身につけるための手引き

『アカデミックプレゼンテーション入門』

データ

- 1 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン
- 小林 恭子
- 2 ひつじ書房(〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル 2F) TEL.03-5319-4916 FAX.03-5319-4917 URL. www.hituzi.co.jp/
- 3 2006年12月
- 4 978-4-89476-337-1
- 5 B5判
- 225ページ
- 6 2310円
- 7 CD1枚付

本書は、学術的な口頭発表を効果的に行うための入門書です。

全7章からなる本書の構成は、①プレゼンテーションの基礎(アウトライン)と必要な日本語表現(数字・図表の説明・比較・接続) ②プレゼンテーションの例(「私の国・町」「私の専門」「アンケート調査」の3種類) ③話し方と態度(非言語的表現を含む)の三つに大別することができます。

中心部分のプレゼンテーションの例(②)は、まず、スライドの作り方から始まり、身近なトピック・専門的なトピックの順で、テキストからスライドへのまとめ方が示されて

います。次に、アンケート調査プロジェクトが事例により示されます。

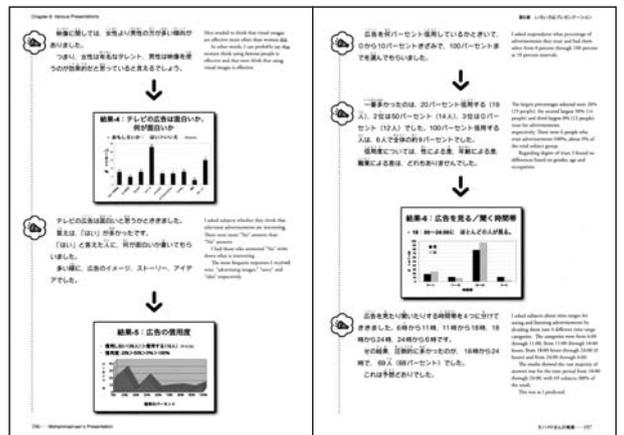
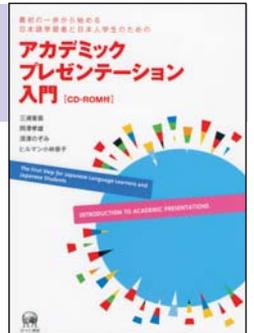
ここでは、スライドへのまとめ方や、スピーチ原稿の作り方だけではなく、アンケート調査に先立つ企画(テーマの設定、質問の項目や方法)や、データ分析の方法(必要な統計学の解説を含む)についても、ていねいに述べられています。

また、本書には、CD-ROMが付いていて、アンケート調査によるプレゼンテーションの映像とアンケート結果のデータ(エクセル)が収められています(その他に、かんたんにカイ2乗検定ができるソフトも入っています)。

プレゼンテーションは、必要な日本語の表現を学ぶだけではうまくできません。テーマの選び方、調査のしかた、分析の方法という内容面と、それをい

かにまとめ、そして発表するかという方法面でのスキルを身につけなければなりません。

大学生にも社会人にも、日本語による調査・研究とその発表において両方の能力を身につけたい人にとって適切な入門書だと思います。



海外でも国内でも、学習者にも教師にも役立つ表現文型の例文リソース

『中上級日本語表現文型-多様な日本語母語話者による例文集』



データ
1石橋 玲子 **2**凡人社 (〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 8F) TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL. www.bonjinsha.com/
32007年2月 **4**978-4-89358-634-6 **5**A5判 303ページ **6**2520円

日本語の中上級以上の学習者が表現文型を学習する時は、日本語で(学習者の母語でも)意味や構文を説明してもらっても、文型の使い方のニュアンスまでは理解できない場合が多いです。日本にいる学習者なら、たくさんさんの使用例に接することができますが、海外にいと学習者は日本語に触れる機会(量と質)が少ないので、もっと学習が難しいです。教師にとっては、中上級以上の表現文型は日常生活であまり使われない領域のものも多いので、違った文脈の例文を複数考えようとしてもなかなか思いつきません。

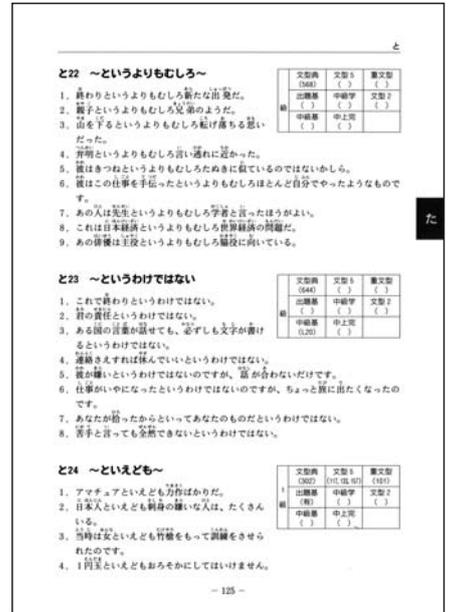
本書は、日本語を母語とする学生(例えば、日本語教育の授業を受けた学生や、日本語教員養成講座で学んだ人たち)から、一般の中老年の方までいろいろな年齢層、いろいろな文化背景の方が作った例文を集めたものです。

本書の文型は、話しことばのくだけた文型から、書き言葉のかなり固い文型、少し古い文型も含まれています。文型は50音順になっており、一つの文型には8前後の例文が紹介されています。すべての漢字にルビがふられています。また、常用漢字以外の漢字のものも含まれているので、例文の意味はわかっても漢字の読み方がわからない学習者がいる場合は、漢字の練習としても利用できます。

本書は、例文集なので、文型の意味や使用法の説明はありません。そのため、他の文型辞典で意味や用法が確認できるように、各文型と例文の横に8つの辞典やテキストの出典が表示され、日本語能力試験に該当する級もつけられています。また、例文は一般の母語話者のものなので、中級と言っても上級の文型が混じっている場合もあります。そのため、日本語の授業で文型導入として使用する場合は、教師が自分の学習者のレベルに合わせて選択する必要があります。

また、同じ文型の例文を取り上げるときでも、単に文型の意味を教師が説明するだけでなく、「どんな人が」「どのような文脈で」言ったかを学習者にグループで考えさせたい

り、同じような文脈を与えて例文を作らせたりすることもできると思います。



P.125

ゲームやクイズを楽しみながら文字やことばが覚えられる

『日本語の力がのびることばあそび』1~5

データ
1吉永幸司 **2**ポプラ社 (〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1) TEL.03-3357-2212 FAX.03-3359-2359 URL. www.poplar.co.jp/
32007年3月 **4**978-4-591-以下 1:09606-2 2:09607-9 3:09608-6 4:09609-3 5:09610-9 **5**各B5判 47ページ **6**各2940円

本書は小学校低学年から中学年を対象にいろいろなことば遊びを数多く紹介しているのが特徴です。①から⑤まで全部で5巻ありますが、それぞれ以下のような内容です。

- ①「ひらがな・かたかな」では早口言葉、数え歌、連想してしりとり歌、だじゃれ、ことばたし算、穴埋めパズル、クロスワードパズルなど、日本語の「音」を使った遊びが紹介されています。
- ②「漢字であそぼう」では漢字の仲間探し、漢字カルタ、熟語しりとり、画数でたし算

ゲーム、四字熟語であそぼうなど、漢字を使ったさまざまな遊びが紹介されています。

③「文字であそぼう」では文字のかくれんぼ、パズル、ことばのサンドイッチ、文字で音をあらわそうなど、文字の形を使った遊びが紹介されています。

④「ことばをあつめよう」ではしりとり、慣用語、ことわざ、反対語、こそあど言葉、さまざまな方言など、語彙を集めることを中心にした遊びが紹介されています。

⑤「友だちにつたえよう」では伝言ゲーム、ジェスチャーゲーム、手話にちょうせん、数字のごろあわせ、なぞかけなど、みんなでするとより楽しい言葉遊びが紹介されています。

各巻は主に「ことば遊び」「やってみよう」「はってん」の三つの部分で構成されています。「ことば遊び」で紹介された遊び方を、「やってみよう」でその遊びやゲームを実際に楽しめます。さらに、「はってん」では「やってみよう」より少し難しい遊びを紹介しています。各巻の漢字にはすべて読み方がついています。それに、「やってみよう」や「はってん」に出てくるゲームやクイズの答えも載っています。



漢字やことばの勉強を楽しくしようとする教師にも参考になる本と言えるでしょう。

P.11~13は国際交流基金の以下の日本語専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

八田直美、三原龍志、生田守、金孝卿、王崇梁(執筆順)、木谷直之(選定のみ)